



《伝統文化・神楽・祭・イベント》

① 盆口説き(肉声)

分類／伝統文化 自治会／上本庄 住所／上本庄地区

毎年、お盆の恒例行事であり、盆踊りで口説き手により口説かれます。初盆供養としても口説かれ、亡くなられた方を近隣総出で弔います。上本庄地区の盆口説き「書生さん」は、田川地区の口説きであり、炭坑節と同時に城井谷に入ってきたものであり、今は上本庄地区にだけ残っています。炭坑節が伝わったのは、藏内氏が関わっているからと云われており、上城井地区も炭坑の試掘が行われていました。昭和後期の口説き手による肉声テープも存在しています。(大西自治会長所蔵)

宇都宮鎮房と黒田との戦いを描いた「きいのこ落城物語」は、地域を歌う新しい盆口説きであり、3種類の踊りがあるとされます。

② 天神山の大しだれ桜祭り

分類／祭 自治会／上本庄 住所／天徳寺(築上町大字本庄 361)そば

「天神山の大しだれ桜祭り」は、3月の最終土日に行われ、篠笛演奏や津軽三味線、琴、尺八の演奏などのステージが賑わい、地元特産品の販売などの様々な催しも行われています。前後期間の午後7時から午後9時までの期間は、夜間ライトアップも行われ、見事な夜桜が楽しめます。



③ 秋祭り(小倉山神社)

分類／祭 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄 2242

小倉山神社の秋祭りは、10月の第1日曜に行われます。(主に神事のみ)小倉山神社の「小倉山」は、京都の小倉山に因んでいるという説と、宇佐神宮の上宮が鎮座する小倉山と関係する説があります。下本庄の秋祭りは大楠神社で行われていますが、個人宅で執り行われており、地区全体での神事にはなっていません。(地区全体での祭りにしようとする動きはあるそうです。)

④ 亥祭り

分類／祭 自治会／上本庄 住所／小倉山神社(築上町大字本庄 2242)

亥祭り(いまつり)は、12月の第1日曜に現在も毎年開催されており、小倉山神社で祭典を執り行った後に、氏子が直会をするお祭りです。(以前は12月の第1亥の日に開催されていたとの事)

⑤ 大楠コンサート(10月)

分類／祭 自治会／下本庄 住所／築上町大字本庄 1641

国指定天然記念物「本庄の大楠」がライトアップされ、幻想的な雰囲気の中で行われるコンサートです。大楠コンサートは、九州交響楽団のメンバーによるクラシックコンサートであり、平成7年より10月の第1週か2週に行われており、11月に開催していた事もありましたが、寒さにより10月開催となりました。今後も継続して開催できるよう、地元の方たちが頑張っています。





⑥ 夏祭り大楠(8/15)

分類／祭 自治会／下本庄 住所／築上町大字本庄 1641

国の天然記念物である大楠の下で行われ、地元の方たちがステージで歌や演奏などの催し物をしたり、出店を開いたりする夏祭りです。夜には、大楠をライトアップし、福岡県で一番小さな花火大会も行います。夏祭り大楠は平成4年にスタートしました。



⑦ カウントダウン花火(12/31)「夢花火大楠」

分類／祭 自治会／下本庄

住所／築上町大字本庄 1641

本庄の大楠そばで打ち上げる福岡県内で一番小さな「カウントダウン花火」です。大晦日に開催され、近くの浄徳寺では一般の方も除夜の鐘を撞くことができます。カウントダウン花火は平成7年にスタートしました。

※夏祭り大楠やカウントダウン花火などの祭りは内野東庵先生が楠の苗木を配って町おこしをした事に習って開催されました。(当時、大楠会が楠の苗木を各地に提供したとの事)

⑧ 御杣始祭(みそまはじめ)宇佐神宮との関係

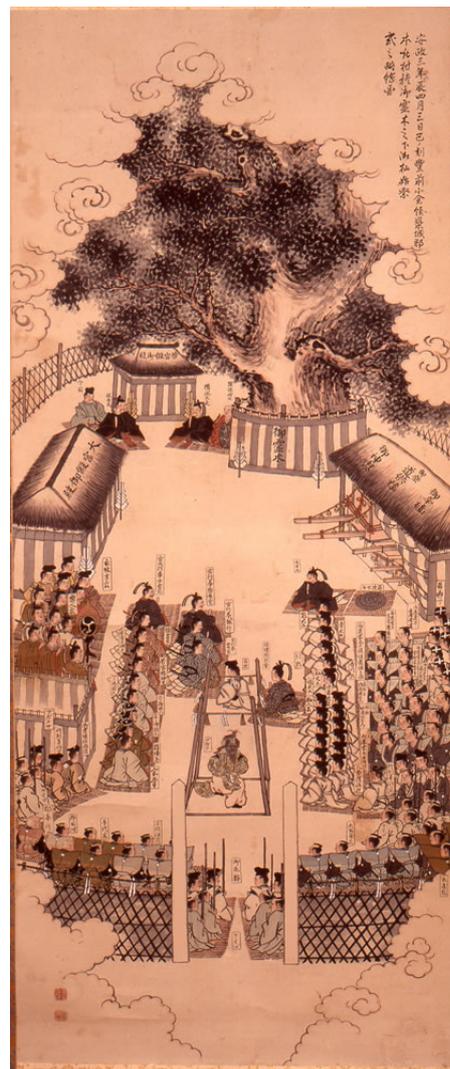
分類／祭 自治会／下本庄

住所／築上町大字本庄 1641

大楠神社所蔵『大楠小楠宮社記』(元禄 12 年:1699)によれば、景行天皇が九州平定のため京都郡御所ヶ谷に仮宮を造営する際、南へ三里の地に楠を一本植えたと言えられ、樹齢 1900 年と云われるが定かではありません。宇佐八幡宮は元慶 4 年(880)太政官符によって 30 年に一度の式年遷宮(建て替え)が決まり、これにより用材を切り出す杣山が決められました。宇佐宮一之殿(八幡大神・応神天皇)が築城郡伝法寺村、二之殿(比売女大神・三女神)が上毛郡川底村(白山神社)、三之殿(神功皇后・息長帯姫命)が下毛郡臼木村(斧立八幡)から切り出され、造営の前にはこの三ヶ所で造営開始の御杣始祭が行われました。造営完了の際は天皇の勅使を迎え勅使祭が行われます。現在の国宝宇佐神宮は安政年間に建てられ、明治時代以降、遷宮はなく、10 年に一度、修理をしています。

御杣始祭の最古の資料は『続左丞抄』保元元年(1156)の記録で「〇〇郡司桑田滋野河内二瀬」とあり、桑田郷(本庄の大楠周辺)で行われました。応永 25 年(1418)の『宇佐宮造営日記』『永弘文書』では、一之御殿の御杣始祭の場所が「築城郡伝法寺河内御堂所の楠」とあり、享保 13 年(1728)の詳細な記録や絵図もあります。御杣始祭は、安政 3 年(1856)を最後に途絶えていましたが、平成 7 年 11 月に地元有志により 139 年ぶりに復活されました。平成 16 年に第 2 回の開催を実現いたしました。予定されていた平成 25 年の開催は実現に至りませんでした。宇佐神宮の

神官を呼んだり、神輿を持ってきたりと規模が大き過ぎる事と、宇佐神宮側の理由により(計画・予定はされておりますが)実現は難しいのが現実です。また、宇佐神宮の神官がお祓いをしながら上城井地区の山々から木材(ヒノキ)を切り出す必要もあり、準備にも膨大な予算と時間がかかります。色々な調整をしながら、次の開催の実現を目指しています。



⑨ ひまわり祭・ほたる祭

分類／祭 自治会／下本庄

住所／下本庄地区

下本庄で50万本のひまわりが咲き誇る「ひまわり祭」や「ホタル祭り」が開催されています。また、地域の小学生に、ホタル養殖の指導も行っています。



《景観・特産品・その他》

① 本庄富士(円錐型の山)

分類／景観 自治会／上本庄

住所／築上町大字本庄

中腹に内野東庵先生の作った本庄の雪穴があり、円錐型の山(オバタケ山)の事で、富士山の形に似ていることから「本庄富士」の愛称で呼ばれています。その山では、内野東庵先生がミカンやハゼを栽培していたと伝えられています。



② しだれ桜

分類／景観 自治会／上本庄

住所／築上町大字本庄

天神山大しだれ桜は、秋永家の先代の母が、戦後京都を訪れた記念に苗を買って帰り、宅地の端に植えておいたものです。以後 60 数年程が経過し、その間成長を遂げていたにもかかわらず、周囲が雑木等に覆われて花を見せることはありませんでした。地主



の秋永春生氏が平成 17 年に母の没後、形見として雑木を伐採したところ、桜は見事に生き返りました。さらに昨年、上城井ふれあい協議会の協力により、樹木医の指導で剪定と周辺整備を行ったところ、すばらしい花をつけました。これ程の大木は珍しく、希少価値のある樹木であり、樹齢約 75 年のしだれ桜は、祭りのシーズンでは夜間 21 時頃までライトアップされています。



③ きくいも／あられ

分類／特産品 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄

上城井地区の「きくいも」は、平成 30 年に設立された「築上町きくいもクラブ」の厳しい品質管理のもとに出荷されているものがほとんどで、高い品質を保っており、築上町全体では「きくいも」生産量九州一を掲げています。

「きくいも」は芋の仲間ではなく、キク科の多年草の植物であり、芋に似た根を付けることから、その名がつけました。花は菊に、見た目は生姜に似ています。



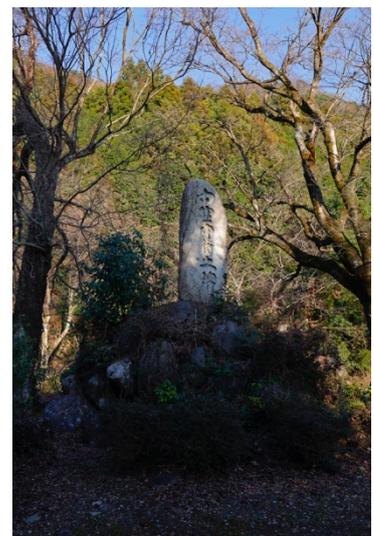
「きくいも」は、イヌリンを含み、血糖値を下げるなどの機能性がありますが、どのような品種でどのように育てたときに、その機能性が担保できるのか、わからない点がまだまだ多い植物です。そこで「築上町農林業元気づくり協議会」では、国立大学法人佐賀大学(農学部、医学部)、医薬品会社の株式会社メディカルグリーン、行政機関、JA などで組織する「佐賀・福岡地域機能性農産物推進協議会」に加盟し、機能性の高い「きくいも」の栽培方法の研究や、人体における機能性の解明を進めています。

「きくいも」は、そのまま青果として食べる以外にも、チップやパウダーにしてお菓子や加工食品に使用したり、医薬品や健康補助食品などへの展開が期待されています。現在、品質の良い「きくいも」を使った加工品でまちおこしをしています。中でも、きくいもパウダーを使った「あられ」は一押しで、メタセの杜などで PR 中です。

④ 内野中将(東庵先生の二男)内野 辰次郎 氏

分類／その他 自治会／上本庄 住所／上本庄地区

医師・内野東庵先生の二男であり、陸軍幼年学校を経て、明治 23 年(1890)に、陸軍士官学校(1 期)を卒業されました。翌年に歩兵少尉に任官し、歩兵第 2 連隊付となって日清戦争にも出征されました。陸士生徒隊付、陸軍戸山学校教官などを経て、陸軍大学校(16 期)を卒業し、大正 7 年(1918)には歩兵第 40 旅団長となり、大正 8 年(1919)、陸軍中將に進み、第 14 師団留守司令官に就任されました。大正 13 年(1924)、第 15 回衆議院議員総選挙で福岡県第三区から立憲政友会所属で出馬して当選し、連続 4 回当選した後に、在任中に死去されました。この間、立憲政友会総務も務められました。



⑤ 内野東庵先生(医者)の実績・歴史

分類／その他 自治会／上本庄 住所／上本庄地区

【内野東庵先生(1841年～1926年)】

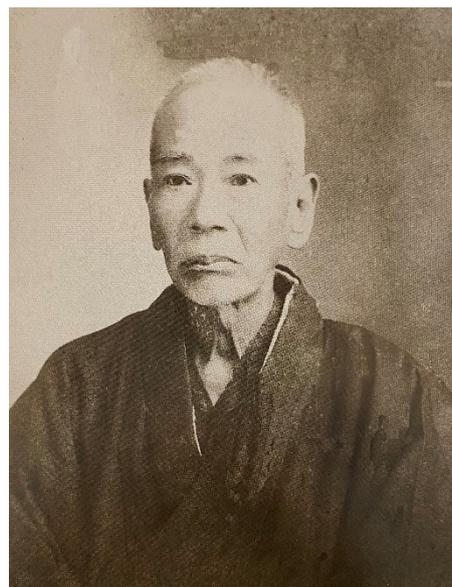
内野東庵先生は、天保12年9月24日、内野蓬庵・マスの次男として上城井本庄(現築上郡築上町本庄)で出生されました。東庵先生が生まれた時代は、ちょうど江戸四大飢饉の一つである「天保の大飢饉」からの回復期であり、時の将軍は十二代徳川家慶であり、天保12年(1841)という年は江戸幕府老中首座の水野忠邦が、「質素儉約・重農主義」を唱えた「天保の改革」に着手した年でもありました。

そのような時代背景の中、東庵先生は父と同じく医者を目指し、秋月藩の儒学者中島衝平の門下となり、その後、越路村(現築上町起路)の三嶋雄山に弟子入りして本格的に医術を学ばれました。東庵先生は本職である医業のかたわら、伝法寺・本庄境の堂山開削による現県道の開通や、みやこ町犀川横瀬と築上町本庄とを結ぶ「萱切隧道」(トンネル)の開削、病人の熱さましのための氷を貯蔵する「本庄の雪穴(氷室)」の建設、地域住民の所得倍増を目指した「みかんの栽培・樺の植樹」、樟脳等の原料になる楠が数年後には伐採し尽くし不足することを見越して「本庄の大楠の苗の移植・栽培」を行うなど産業、福祉、地域住民の生活向上に大いに貢献されました。

日露戦争が勃発したため実施こそできませんでしたが、築上町寒田とみやこ町犀川帆柱との間にある銚立峠にトンネルを掘る計画を立て、その資金調達のために自ら書画を書き、売り歩いたと伝えられます。

(東庵先生の死去後、昭和62年に県道銚立トンネルが開通)

晩年は伝法寺に「汽船山真行寺」を開山し、仏門者として地域住民の善道に精進されました。正光寺境内には、かつて東庵先生が信仰していた仏像を安置したお堂があります。瓢箪でつくった帽子をかぶり、法衣を着て、首には頭陀袋を下げ、網代笠と錫杖を携えた一種独特な格好で各地を遊歴されました。事業を行うための金策にまわる際も、お金を貸す側が平身低頭したという威厳の持ち主でしたが、内野東庵先生も病には勝てず、大正15年8月29日に逝去されました。享年は85歳であり、伝法寺には内野東庵先生ゆかりの史跡が数か所見受けられます。現在の伝法寺生活改善センター付近は、かつて東庵先生が晩年生活を送った場所であり、現地には記念碑も建てられています。また、内野西公園には眼を患った東庵先生が自らの眼球を埋めた「生き目不動尊」があり、石碑には「生き目をばここに埋めて置土産しに目見ぬとて泣くな子や孫」という東庵先生晩年の句が刻まれています。正光寺境内には、明治35年頃に内野東庵先生が植樹した楠も残されています。



⑥ ジャンボピーナッツ

分類／特産品 自治会／下本庄 住所／築上町大字本庄

食味の良い超大粒種・超大粒であり、強い甘味があって、食味に優れ、「ゆで落花生」としても楽しめます。平坦地での適作型は、5月下旬の蒔きで、10月中旬からの収穫となります。(ゆで落花生は、10月上旬の収穫)

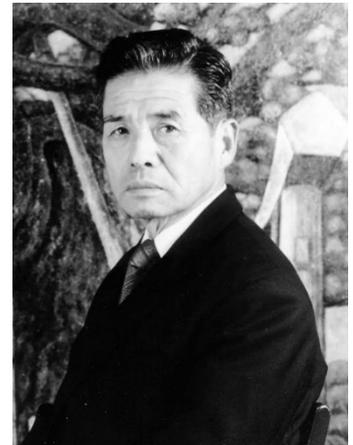
⑦ 嶋田 隆 氏(画家)

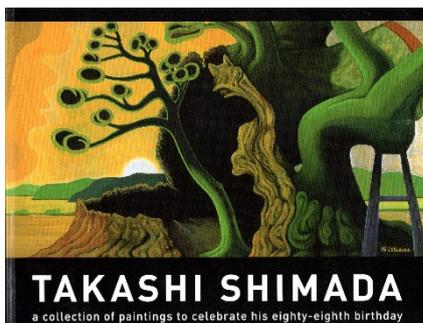
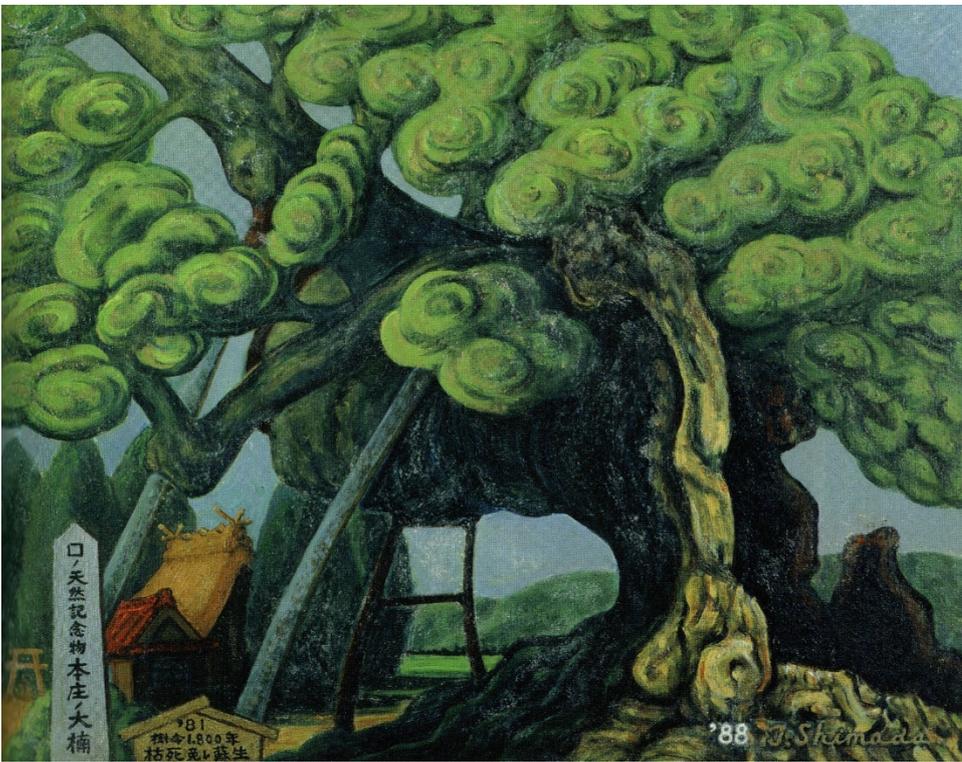
分類／その他 自治会／下本庄

住所／築上町大字本庄

嶋田隆氏は、1916年に本庄で生まれ、5歳の頃に父親からもらった王様クレヨンで初めて描いたのが「本庄の大楠」でした。以来、生涯にわたって大楠を描き続けました。福岡師範学校(現 教育大学)卒業後は教職に就き、1975年に福岡県椎田中学校長を最後に退職されました。

サロン・ド・パリ委員、全日本美術協会委員などを歴任し、北九州教育委員会会長賞、サロン・ド・パリ展芸術グラフ賞、芸術公論賞、パリ本展、ニューヨーク展、東京展、「大楠」出展、日展、県美展入選など、数々の華々しい実績があります。また、NHK、TNC、FBS、RKB、KBC、TVQなど様々なメディアで取り上げられ、長きにわたり「大楠」を描き続けた人生に多くの注目が寄せられました。「大楠は360度どこから見ても絵になる」という持論を掲げ、2010年95歳で永眠するまで、時代とともに少しずつ様変わりする大楠の姿を記録し続け、正に「人生をかけて」大楠を描いた画家と言えるでしょう。





嶋田 隆 作品集 より

《史跡》

① 小川内(こがわち)城址

分類／史跡 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄

福岡県教育委員会の調査では、黒田氏が宇都宮鎮房を攻めるために築いた付城とされています。

(萱切の内出崎の丸山の神楽城といい、吉川広家が築いたともいう)

第二次城井谷攻めで、黒田長政はここに桐山弥兵衛、黒田宗兵衛、原弥左衛門の三将と兵 350 人を配備しました。築上町とみやこ町にまたがり、尾根筋にある全長 200mにも及ぶ大規模な山城には、三カ所の堀切や土塁などが良好に残っています。ここから寒田の大平城(城井城)を攻めたと思われ、『陰徳太平記』では、吉川広家が大平城の対岸に「猿尾の陣」を置いたとされています。一方で、黒田側の付城は萱切城で、小川内城はあくまでも宇都宮方の城だったとする見解もあり(北部九州中近世城郭研究会)、決定的な歴史的証拠が出て来ない以上、現状では「両説ある」という表現がより正確であると考えられます。



② 中河内不動(民話)

分類／史跡 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄

昔、伝法寺地区に火災が多く発生し、村人達は中河内の不動尊を借りて、大西池の水路付近に安置していました。幾多の年月が経ち、中河内の不動尊が地区の有志の夢枕に立ち、元の位置に帰りたいといました。そこで村人達は元の中河内に戻し、現在の場所に安置しました。地元では「なかんこち」と呼び、親しまれています。

【本庄の不動さま】(民話)

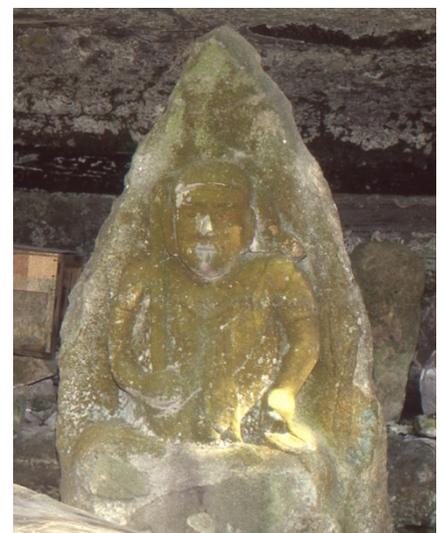
「なかんこちの不動様」は人里はなれた所に一人でいらっしゃる。

「一人じゃおさびしかろう」「あれじゃそまつになる」

村人たちは不動さまを里に運びおろすことにした。いざ運びかかってみると、その重いこと重いこと。大ぜい集まって汗びっしょりになって運びおろした。ところがそれからというもの、村に困ったことが次々とおこる。病気がはやる。火事がおこる。けが人がでる。

「こりゃきつと不動さまがおこっていなさるんじゃ」「不動さまはもとの所がお好きなんじゃ。」

そこで又中川内におかえり願うことにした。ところがなんと、その軽いこと軽いこと。かるがるとおんぶしてもとの所に運び上げた。お不動さまは、今もひとりで、人里はなれた処にすわってござる。



③ 乳の観音様(観音堂)(子安観音)

分類/史跡 自治会/上本庄 住所/築上町大字本庄

乳の出ない婦人が参詣してお祈りをしたら、母乳が出てきたという言い伝えが残っていて、かつては多くの参詣者があつたと云われています。

像高 15.5cm であり、中河内不動と同じ上本庄地域にあります。地元では乳の出ない母親がお米を持ってお参りに行き、そのお米を炊いて食べると乳が出たという話が伝えられています。



④ 荒平観音

分類/史跡 自治会/上本庄 住所/築上町大字本庄

観音堂の棟札には、寛文3年(1663)に藩主小笠原忠政公によって建てられたと書かれています。平安時代の吉祥天像と思われる木造仏のほか、周囲には石仏が立ち並んでおり、季節になると美しい紅葉がみられます。現在、お堂が新しくなっているため、観音堂の奥にまた小さなお堂があり、観音様が何体か安置されているとの事です。



⑤ 本庄の雪穴(氷室)

分類/史跡 自治会/上本庄 住所/築上町大字本庄

内野東庵先生(1841~1926)は本庄村に生まれ、医師である父、蓬山のあとを継いで地域の医療に携わりました。また、県道や萱切トンネル(横瀬一本庄:明治36年開通)や鉾立トンネルの開鑿をし、みかんの栽培・櫨の植樹・大楠の苗の移植など産業を興し、福祉、住民の生活向上に貢献しました。本庄の雪穴は東庵先生の発願で明治時代に造られた氷室であり、直径は5.3mで、深さは4.6mある花崗岩谷積です。冬季に雪を運び入れて踏み固め、茅などで覆って、夏期まで雪氷を貯蔵し、病人の熱冷しに使用しました。一度、壊れてしまった為に、現存しているのは再建されたものです。



⑥ 月光山天徳寺

分類／史跡 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄 361

月光山天徳寺は、宇都宮氏(城井氏)の菩提寺であり、正慶年間(1332年頃)に五代頼房が建立したと伝えられています。後に国東の泉福寺、蔵山融澤禅師によって天台寺から曹洞宗に改宗され、本尊は釈迦如来で鎌倉時代の作です。また寺宝に、宇都宮氏の祖となった宗円が前九年の役(1053)の功績により、後冷泉天皇より下賜されたと伝えられる金銅「三足臺香炉」があり、境内には宇都宮氏末期の当主である長甫、鎮房、朝房の墓(いずれも上部にひび割れがある)や、室町時代に活躍した城井俊房の宝篋印塔などがあります。春から夏にかけて、境内はツツジやアジサイで彩られます。4~5年前に寺宝(龍の絵が描かれた屏風)が見つかり、しだれ桜まつりの際に御開帳されています。



⑦ 本庄城址

分類／史跡 自治会／上本庄

住所／築上町大字本庄

天徳寺の裏山一帯が本庄城址(城井城・若山城とも言われる)であり、山頂から裾に延びる二本の尾根を堀切で切り、背後の山頂入口の尾根も堀切で断ち切っています。山頂の尾根は幅30m、長さ200mの平坦面が広がるのみです。明応10年(1501) 大内氏と大友氏の戦いの時、城井直重ほか大友氏一派がここに立てこもりましたが、大内氏によって攻め落とされました。



正面の丘の中腹に本庄城址がある

⑧ 小倉山神社の菩薩像

分類／史跡 自治会／上本庄 住所／築上町大字本庄 2242

像高 81 センチで焼仏ですが、平安時代後期の作と推定されています。



以前、小倉山神社があった場所

⑨ 大楠神社

分類／史跡 自治会／下本庄

住所／築上町大字本庄 1641

大楠神社の古文書によれば、景行天皇が九州平定のため京都郡・御所ヶ谷に行宮を造営したときに南三里の山河清浄の地に常磐木の楠を植え、戦勝を祈願したといわれています。大楠神社の鳥居は安政3年(1856)、御杣始に合わせたもので、境内にある海神社の鳥居は明治40年7月に移されました。元の海神社は、旧小倉山神社の下の中州(川の中)にありました。

町指定文化財の「大楠小楠宮社記」と「御杣始祭絵図」所蔵。



⑩ 本庄の大楠

分類／史跡 自治会／下本庄 住所／築上町大字本庄 1641

推定樹齢は約1900年で、幹回り21メートル、根回り31.84メートル、樹高25.8メートルとなり、木芯部は大きな空洞となっていて、明治34年にこの中で焼き火が引火し、大半が焼失しました。その際、神事で繋がり深い宇佐神宮にまで、その急報が届いたそうです。その後、奇跡的に第一枝がよみがえり、現在の姿まで成長しました。現在5本の支柱に支えられ、支柱の食込みなど難題をかかえながらも、支柱の一部取り替え、土壌改良などの保護工事を現在も継続しています。度重なる災難にあっても奇跡的に復活する姿に、「長寿が叶う」「霊験あらたか」と信仰される神の樹でもあり、日本三大楠の一つで、大正11年に国の天然記念物に指定され、全国第4位の巨木となっています。



⑪ 萱切隧道

分類／史跡 自治会／下本庄 住所／築上町大字本庄

本庄の医師・内野東庵先生(1841-1926)は、医者のない横瀬へこの峠を越えて往診していましたが、トンネルを掘れば峠越えの時間を短縮できると考え、明治36年(1903)、東庵先生の還暦祝いをおかねてトンネル工事に着手しました。約7か月で無事に開通し、トンネルの長さは約100m、幅と高さは2.5m程であり、トンネルは峠の頂上に近い所に掘られています。還暦をむかえた東庵先生にとっては、頂上付近の急坂を登らずにすむのは体が楽だったのでしょうか。名前の由来は、茅切り場が近くにあったからだと言われています。萱切隧道は10年ほど前に整備され、(途中の山道は多少険しいものの)通行できる状態になっています。



⑫ 茅切城址

分類／史跡 自治会／下本庄

住所／築上町大字本庄

本庄地区の西峰、築上町とみやこ町横瀬の境の尾根に細長く伸びる山城で、電波中継所建設で地形が一部変わっています。

